

運輸情報管理システム —トラック輸送の システム化—

今日の大量生産・大量消費経済社会において、トラック輸送は物流面で大きな役割を果たしており、更に大量輸送を円滑にするため「輸送の合理化」が要望されている。

それは、物流と情報処理を総合的にとらえ、輸送管理、車両管理、営業管理をそれぞれシステム化し、それによって運行効率を高め、経営管理の質的向上を図るとともに、荷主へのサービスを強化しようというものである。

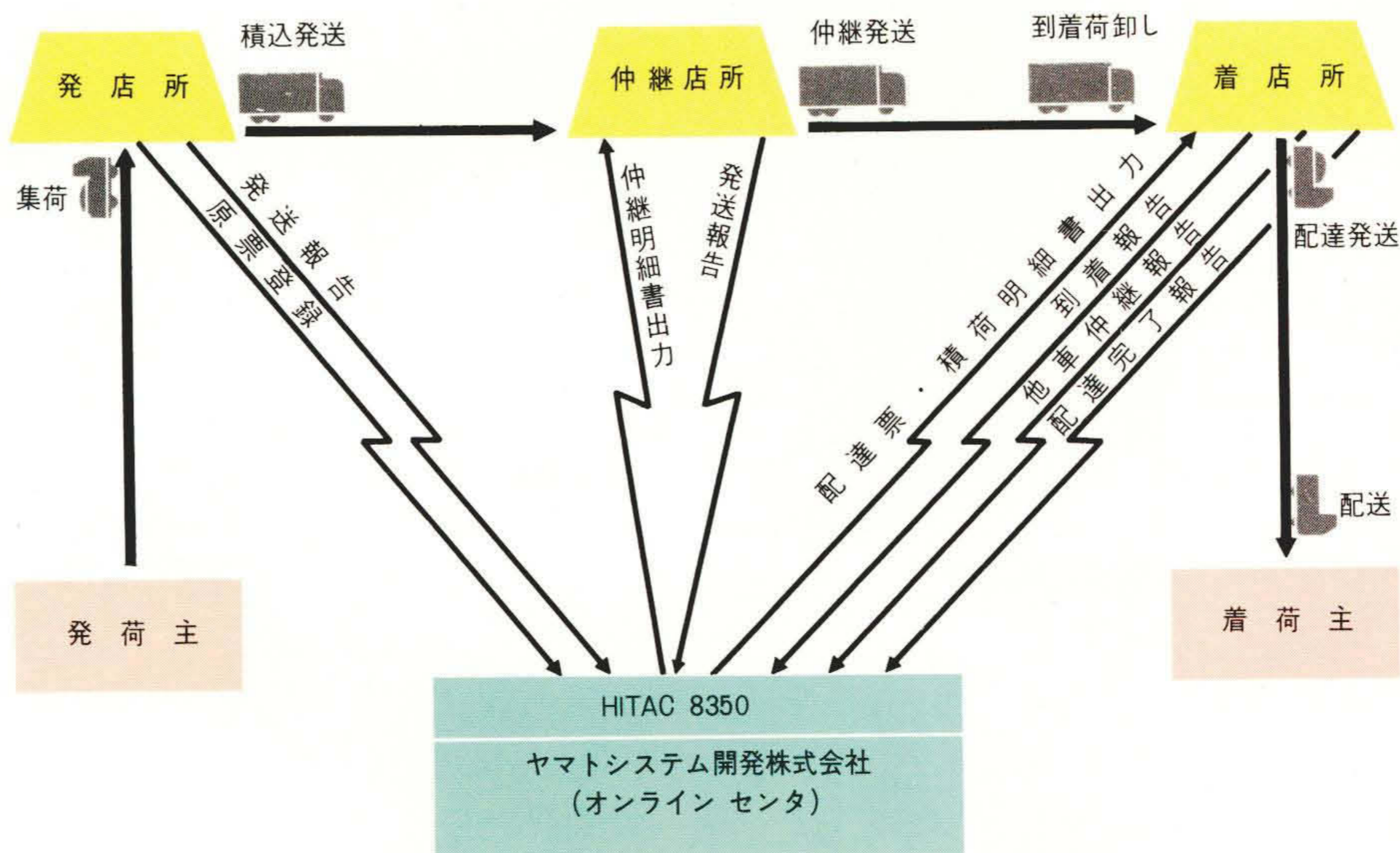
トラック輸送は、その免許の種類により、路線輸送、区域輸送及び鉄道と結ぶ通運輸送などに分けられており、大手の輸送業者である大和運輸株式会社では、この路線と通運輸送を中心としたオンラインシステムが開発されている。路線輸送は発荷主から集貨した貨物を発店所で方面別に仕分け後、大形トラックに混載し、長距離輸送され、その後、着店所では配達先別に仕分けられて、着荷主へ配達される。しかしながら、全国にわたって輸送網を持つ路線会社では、国内の端から端まですべてを直送することは路線貨物の性質上輸送効率の面からも困難であり、東京、大阪などの大都市で貨物の積替えが生ずる。このようにトラックで輸送する過程において、荷卸し、仕分け、積込みと、その都度、送り状の照合が発生するため、貨物の的確な管理と輸送状況の正確な把握が難しくなり、荷主から貨物の照合があると、関連した店所間の連携作業となり、多大な人手と時



間を費やしていた。本システムは「人手と時間をかけない」ことをスローガンに荷物の集貨時点で、送り状を端末機より入力し、発店から着店まで輸送される段階で、貨物の積卸しの都度、送り状ナンバーを各店所の端末機より送信して、輸送の経過を記録して行く。このため、貨物の照合は端末機から送り状ナンバーを入力することで、直ちに応答が帰る。また、着店では積荷明細書がトラックの到着以前に、到着車両別にまとめられて出力され、同時に従来、現場で多大な労力を要していた運賃計算が、送り状の登録時にコンピュータにより、直ちに計算されるため、今まで以上に、より人材の高度な活用

が可能になった。

大和運輸株式会社の総合輸送オンラインシステムは、ヤマトシステム開発株式会社と日立製作所とが協力して開発し、HITAC 8350を中心に、全国50店所を日本電信電話公社の回線で結ばれている。本システムは同社のシンボルマークである親子ネコにちなんで、NEKOトータルシステムと呼ばれ、本システムの稼動により、輸送情報が迅速かつ的確に把握でき、荷主に対するサービスの向上がなされたと同時に輸送作業の改善ならびに省力化が図られたと言われる。



NEKOトータルシステム